

新規購入什器の選定について

山口 美 咲 （信州大学教育学部図書館）

はじめに

増築工事により利用者スペースが拡大するため、既存の什器では数が足りなくなる見込みとなった。また、増築部の利用者スペースは共同学習のためのスペース(いわゆるラーニング・コモンズやアクティブラーニングのためのスペース)となるため、それに見合った什器を選定する必要が生じた。どのような点を重視し新たに什器を選定したのかについて述べたい。

最終的に購入したのは、以下の什器である。

同じ名称のものは、同一の什器である。ただし、椅子については座面の色と材質が異なっている場合もある。

1階 自由学習スペース：椅子 A ※机は改修前に使用していたムーンテーブルを使用



2階 共同学習スペース・グループ学習室：椅子 A、机 A



2階 セミナー室：椅子 B、机 B



3階 閲覧室：椅子C、机A



試験期追加用：椅子D、机C



1 フロアコンセプトの確認

各フロアの資料配置やスペースの性格付けについては、改修工事の始まる時点で決定していた。

1階 南棟増築部：会話可能・飲食可能の自由学習スペース

南棟改修部：展示スペース、郷土資料を配置

北棟：閉架書庫

2階 南棟増築部：会話可能の共同学習スペース・グループ学習室・セミナー室

南棟改修部：会話不可の閲覧席、図書・雑誌を配置、PCコーナー、貴重資料室

北棟：雑誌バックナンバー

3階 南棟増築部・南棟改修部・北棟：会話不可の個人学習スペース、図書を配置

このフロアコンセプトに沿って、まずは既存の什器の配置を考え、足りない分とコンセプトに合う什器が無いものについては、新規に購入することとなった。結果として、増築部以外は既存の什器を使用することとなったため、購入するのは増築部で使用する什器のみとなった。

2 購入什器の検討

それぞれコンセプトの異なるスペースごとに、どのような什器を購入したいのかを職員内で検討した。

1階の自由学習スペースは、飲食可能スペースとなるため汚れても掃除がしやすいと良い、という希望があった。そのため、椅子の座面については布ではなくビニールのような材質のものにできないかと考えた。机については、既存のムーンテーブルがコンセプトにも合うため使用することとなった。

2階の共同学習スペースは、アクティブラーニングのスペースとなるため、可動式の机・椅子を導入することとした。アクティブラーニングスペースには変形の机が導入されることも多いが、当館では長方形の机が一番使い勝手が良いだろう、という意見に落ち着いた。また、学生が気軽に動かすことができるように、2人がけの小さい机を多く配置することとした。セミナー室は、収容したい最大人数を考慮し、机は3人並んで座れるできるだけ小ぶりのものにしたいと考えた。また、さまざまなパターンのセミナーや講演会に対応できるように、使用しない机は少ないスペースで片づけられるようにしたいという希望がでた。

3階の閲覧室は、長時間の学習に利用されることが想定されたため、椅子は座り心地を重視することとなった。また、多くの資料を広げられるように、大きめの机にしたいと考えた。

また、これまでも試験期間になると利用者が急増し座席が不足していたため、一時的に座席を増やすのに適した什器があるか探すことにした。

すべてに共通して、基本的にはキャスター付き・スタッキング可能な什器にしたいという希望がでた。机には、荷物掛けを備えたいという意見があった。色は館内の壁や外壁のルーバーに合わせて、全体的に落ち着いた色合いにしようと考えた。

購入什器の検討の段階では数社のカタログを見ながらイメージを構築していたが、やはり現物を実際

に見て使ってみなければ分からない部分が多い、という意見が多かった。そのため、業者よりサンプルを一時的にお借りしたり、8月に東京のショールーム3箇所を訪問して現物を見させていただいた。

特に椅子については、座面の硬さなど実際に座ってみないとわからないところが多く、現物を試すことができたのは幸いであった。ショールームでは、同じような什器を見比べることができたり、カタログには掲載されていない情報を教えていただくことができ、有意義な訪問となった。ただし、1日で3業者をまわったため情報の整理が追いつかず、もっと細かくメモを取っておくべきだったと反省した。

3 仕様書策定

購入は入札となったため、仕様書を作成することとなった。まずは各スペースにどのような什器をいくつ購入するかを決めた。あるスペースについて、メーカー a であれば机は型番①を△個・椅子は型番②を△個、メーカー b であれば机は型番③を△個・椅子は型番④を△個、というように実際の什器を仮で選定した。次に、その希望を仕様書に落とし込むために、各什器について数値や言葉で表現することになった。サイズなどの数値で表せる部分はいいが、色や座り心地などを言葉で表現するのは難しい作業であった。

4 業者決定後

入札により業者が決定し、同時に実際に購入する什器が決定となった。仕様書にて色は後から選ぶことが出来るようお願いしていたため、この時に色を決定した。

椅子については、座面はすべて黒として背もたれの色は別の色にしようと考えた。これは、今まで使用していた椅子を見て、特に座面が汚れやすく目立つと感じていたからである。机は、木目調の壁や床よりも明るい茶色を選んだ。

5 購入した什器について

購入した什器について詳しく説明する。写真は p1-3 を参照いただきたい。

1階 自由学習スペース

椅子 A：色は座面が深緑(材質を優先すると黒が無かったため)・背もたれが黄色、材質は合皮で汚れてもふき取れるようにした。キャスター付きでスタッキング可能である。

2階 共同学習スペース・グループ学習室

椅子 A：1階と同じ椅子で、色は座面が黒・背もたれが黄緑とし、材質は布である。

机 A：片側の脚2本にキャスターが付いており移動が可能である。脚のデザインが荷物掛けのフックになっており、4本すべてが同様である。スタッキングは不可。

2階 セミナー室

椅子 B：椅子 A よりもやや小ぶりで、クッションは座面のみである。キャスター付きでスタッキング可能である。

机 B：会議機の形状で、天板を跳ね上げてスタッキングすることが可能である。資料を広げることを考え、奥行きは通常の会議机よりも長いものにした。

3階 閲覧室

椅子 C：4本脚の事務用椅子である。色は座面が黒・背もたれが青である。座面の高さが調節可能となっている。

机 A：2階の机と色も形も同じものである。写真は2台くっつけた状態で、正方形になっている。現在は、1つの机に一人しか座らなくなるため、1台ずつ離して配置している。

試験期追加用

椅子 D：最大40脚スタッキング可能で、専用の台車に収納することができる。

机 C：一人用の机で、天板を跳ね上げてスタッキングすることが可能である。

終わりに

什器を選ぶということは、そのスペースの使われ方を決めることに直結すると痛感した。悩んだことは多々あったが、図書館全体の雰囲気に合っていて、利用者にとって使いやすい什器を選ぶことができたのではないかと思う。